

## 第三次

# 多摩市子どもの読書活動推進計画

～すべての子どもに読書のよろこびを～

(素案)

平成30年3月

多摩市教育委員会



はじめに

平成30年3月

多摩市教育委員会

# 目 次

## 第1章 子どもの読書活動推進の意義と経緯

1. 子どもの読書活動の意義	1
2. 計画策定の経緯	1
3. 計画の位置づけ	1
4. 国や都の動向	3

## 第2章 第二次計画の取り組み状況と課題

1. 基本目標、施策ごとの取り組み	4
2. 第三次計画策定に向けての課題	7

## 第3章 多摩市の子どもの読書活動の状況

1. アンケート結果から	9
2. 学校図書館訪問から	23

## 第4章 第三次計画策定にあたっての考え方

1. 計画の目的	28
2. 計画の期間	28
3. 基本理念	28
4. 基本目標	29
5. 計画の対象	30
6. 第三次計画策定における視点	31
7. 重点施策	31
8. 計画の推進	31
9. 評価指標（数値目標）	33

## 第5章 第三次計画の内容

1. 計画の体系図	35
2. 施策表	36

## 資料編

1. データ	
(1) 第二次計画の取り組み実績（施策別）	61
(2) 第三次計画策定に向けてのアンケート実施結果	77
(3) アンケート用紙	117
2. 法制度等	152
・子どもの読書活動の推進に関する法律	
・第三次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」について	
出典：文部科学省子供の読書活動推進に関する有識者会議（第1回）配付資料	
・第三次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の概要①②	
出典：文部科学省子供の読書活動推進に関する有識者会議（第1回）配付資料	
・第三次東京都子供読書活動推進計画について〈概要版〉	
・第三次東京都子供読書活動推進計画について〈主な取組〉	
3. 第三次多摩市子どもの読書活動推進計画の策定	
(1) 要綱	163
(2) 策定委員会等名簿	167
(3) 策定経過	169
(4) パブリックコメント実施結果	171

# 第1章 子どもの読書活動推進の意義と経緯

## 1. 子どもの読書活動の意義

読書は、豊かな感性を磨き、幅広い知識を得て、考える力を育て、表現力、想像力を育むことができる大切な行為です。

特に子どもにとっての読書とは、豊かな言葉を獲得するための活動であるとともに、読書をとおして得た知識が、その子どもが主体的に学び、生きていく上での大切な力につながります。

これからの社会は予測がとても難しい社会になると考えられます。子どもたちが、日頃の読書活動で得た知識、様々な情報から選択した適切な情報等を基にして、直面するさまざまな課題を克服し、人生をより主体的に、より豊かに生きていく力を、その子の成長の過程で確実に身につけるために、国や地方公共団体は積極的にそのための環境整備を推進していく必要があります。

## 2. 計画策定の経緯

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号）の第9条第2項の規定に基づいて、多摩市では第一次計画（平成18年11月）、第二次計画（平成24年2月）を策定、推進し、これに続き第三次計画を策定するものです。

## 3. 計画の位置づけ

本計画は「第五次多摩市総合計画 第2期基本計画」と「多摩市教育振興プラン（改訂版）」を上位計画とします。

また、多摩市立図書館における他の計画である「多摩市読書活動振興計画」（平成28年5月策定）及び多摩市立図書館本館再構築基本構想（平成29年3月策定）と連動するものであり、内容については整合を図るものとします。

## 第五次多摩市総合計画 第2期基本計画

政策	A2 人と学びを未来につなぐまちづくり	C2 豊かな心を育む、学びと文化、交流のまちづくり
施策	1 学力の伸長と個性、創造性の育成	1 市民の文化・スポーツ、学習活動の振興
施策の方向性	3 情報教育の推進と環境整備	1 多様な学びや文化・スポーツ活動の環境整備

### 多摩市教育振興プラン（改訂版）

1. 「確かな学力」の育成を目指す施策
  - (1) 「確かな学力」を育成するための学校への支援
    - ⑤情報教育の推進
2. 「豊かな心」の育成を目指す施策
  - (1) 「豊かな心」を育成するための学校への支援
    - ③持続可能な社会の担い手の育成
  - (3) 「豊かな心」を育成するための地域への支援
    - ①地域における子どもの体験の場づくり
4. 学校・家庭・地域で「生きる力」を育むための施策
  - (1)教育の連携
    - ②学校・家庭・地域の連携

(国)子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画

(都)子供読書活動推進計画

多摩市読書活動振興計画

第三次多摩市子どもの読書活動推進計画

多摩市立図書館本館再構築基本構想

## 4. 国や都の動向

### (1) 国のこれまでの動き

平成13年(2001年)12月

「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布、施行

平成14年(2002年)8月

「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定

平成20年(2008年)3月

「第2次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定

平成25年(2013年)5月

「第3次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定

平成26年(2014年)7月

学校図書館法改正

### (2) 東京都のこれまでの動き

平成15年(2003年)3月

「東京都子ども読書活動推進計画」を策定

平成21年(2009年)3月

「第二次東京都子供読書活動推進計画」を策定

平成27年(2015年)2月

「第三次東京都子供読書活動推進計画」を策定



## 第2章 第二次計画の取り組み状況と課題

### 1. 基本目標、施策ごとの取り組み

第三次計画策定にあたっては、第二次計画での取り組み状況を確認しました。  
主な取り組み状況は次のとおりです。

詳細は「資料編1. データ(1) 第二次計画の取り組み実績(施策別)」を参照してください。

### 第二次計画 主な取り組み

#### 基本目標Ⅰ 本の楽しさを子どもたちに — 一本に親しむ機会の充実 —

##### 1 本の情報提供

- 市立図書館では、絵本かたりかけ事業（健康センターでの3～4ヶ月健診時に保護者に読み聞かせの大切さを紹介し、絵本を配付する事業）、イベント、学校を通じてブックリストの配付を行った。
- 小中学校においては各校の図書館だよりやブックリスト等により情報提供を行っている。

##### 2 市立図書館・学校図書館のPR、利用指導

- 小学校2年生を対象とした市立図書館への訪問を継続し、各学校においては、学校図書館利用のためのオリエンテーションを実施している。
- 平成28年度からは市立図書館と特別支援学校との連携を開始した。

##### 3 おはなし会の充実

- 市立図書館におけるおはなし会の開催日等の見直しを行っている。
- 市立図書館以外を会場とする「図書館 おはなしの広場」を、平成26年度から開始した。
- 小中学校においては、朝読書、読み聞かせ、ブックトーク等を実施している。
- 平成26年度から多摩市立子育て総合センターにおいてボランティアによる定例のおはなし会の開催を始めた。

#### 4 イベントの充実・体験の場の提供

- ・市立図書館が開催する子ども読書まつり《ほんともフェスタ》の展示を平成26年度からグリナード永山で開催し、来場者数が向上した。(各小中学校の学校図書館の紹介)
- ・市立図書館全館で、夏休みに主に小学生を対象とした「一日図書館員」を開始した。

#### 5 保護者への働きかけ

- ・乳幼児の保護者向けの読書手帳「絵本のきろく」を作成配付開始
- ・健康センターの健診会場に絵本を設置(パパママ学級、3歳児健診)
- ・小中学校では「図書館だより」の活用、親子読書の推進等

## 第二次計画 主な取り組み

### 基本目標Ⅱ いつでもどこでも本はともだち

#### —読書環境の整備と充実—

#### 6 蔵書の充実

- ・児童、生徒向け新聞の所蔵開始(各1館)、多摩市立図書館おすすめの絵本、調べ学習用図書の買い替え推進、マルチメディアデジタイズ受け入れ開始

#### 7 読書コーナーの設置・充実

- ・本庁2階授乳コーナーに絵本、リストを設置し、来庁者へのPRを開始。永山図書館のティーンズコーナーのリニューアル
- ・多摩市立子育て総合センター内の出張ひろば等に、絵本コーナーを設置

#### 8 学校図書館の調べ学習・読書・おはなし会の環境整備

- ・小学校、中学校ともに、居心地のよい環境づくりに向けて、配架や机等の配置の改善、分類表示や展示等の工夫が進んでいる。中学校では、調べ学習のために多摩市の郷土資料を整備し登録をした。
- ・各校の建て替えや大規模修繕では、学校図書館のリニューアルが進んでいる。

- 9 児童サービス担当・ティーンズサービス担当の全館配置
- ・各館において担当者を増やしたり、赤ちゃんおはなし会の担当者の設置等を行うなど体制強化に努めたが、児童サービス担当とティーンズ担当の各々について全館配置は実施できなかった。
- 10 学校図書館司書による読書活動の効果的推進
- ・小学校では読書ノートの活用や「図書の日」における学校図書館司書による読み聞かせ、本の紹介等を積極的に行っている。
  - ・中学校では合理的配慮が必要な生徒や特別支援学級への働きかけを適宜行っている。

## 第二次計画 主な取り組み

### 基本目標Ⅲ みんなでつながり育てあう 一人材の育成、関係機関等との協力・連携

- 11 職員の育成・研修体制の整備・情報交換
- ・市立図書館職員の研修として「読み聞かせ講座」の実施、外部研修への参加を行っている。
  - ・小中学校では各種研修会へ参加し、そこで得た情報を活用している。また教育指導課では、学校図書館研修において外部講師を招くなど充実に努めている。
- 12 ボランティアの育成
- ・市立図書館主催講座「はじめてのよみきかせ」の開催時期の改善、回数の充実
  - ・ボランティア養成講座修了者が、図書館でおはなし会を開催するにあたっての支援
- 13 相互連携の継続
- ・都立図書館主催及び他団体主催の研修への市立図書館職員の派遣

#### 1.4 ネットワークづくり・人材と組織を結ぶコーディネート

- 子ども読書まつり《ほんともフェスタ》では市立図書館、学校、地域及び学校のおはなし会ボランティア、市内大学の学生等が協力し、各種イベントを開催した。
- 小学校では、保護者及び地域のボランティアが読み聞かせ等に参加し活動を行っている。
- 市立図書館の情報を、子育て支援情報として提供し始めた。（「地域子育て支援拠点だより わくわく通信」等）

#### 1.5 司書教諭等・学校図書館司書・担任との連携

- 小学校では、課題づくりに応じた資料の提供や、辞典等の使い方の実施等で連携を行っている。また小中学校とともに読書週間や委員会活動での連携は活発である。
- 教育指導課主催の学校図書館研修時に連携について協議した。

## 2. 第三次計画策定に向けての課題

第二次計画の取り組み状況については前掲1. から、おおむね推進ができていると考えます。

しかしながら、第一次、第二次計画から継続している課題、第二次計画期間中の取り組み状況が十分ではなかった事項があります。

### 第三次計画策定に向けての課題（1）

第一次、第二次計画から継続している課題

- ① 私立保育園・幼稚園への働きかけ
- ② 配慮が必要な子どもへの支援
- ③ 10代の子ども向けサービス

## 第三次計画策定に向けての課題（２）

第二次計画期間中の取り組み状況が十分ではなかった主な事項  
（前掲（１）に該当する事項を除く）

- ①多摩市立図書館発行のブックリストの改訂、ホームページの充実
- ②市立図書館とその資料の利用指導
- ③「子ども読書まつり」等のあり方の検討
- ④保護者向け講座の実施、充実
- ⑤関係課と連携しての各施設の蔵書の充実
- ⑥蔵書の効果的な活用に向けての市立図書館と学校図書館及び学校図書館間の資料等の流通についての工夫
- ⑦児童サービス担当と別にティーンズ担当を配置し、より専門的な相談に応じる。
- ⑧団体貸出の充実、学校図書館及び学校図書館司書への支援
- ⑨図書館職員が研修・講座に参加できる体制整備、研修体制の充実
- ⑩専門的知識・技術の職員間での継承
- ⑪学校図書館司書間の情報交換の場の充実
- ⑫関係課と連携してボランティアを養成する講座を開催する。
- ⑬子育て、児童福祉の視点からの支援

## 第3章 多摩市の子どもの読書活動の状況

### 1. アンケートの結果から

(家庭、各機関、児童、生徒、学校、地域ボランティア等の活動状況)

多摩市の子どもたちの読書環境や活動の現状を把握し、計画策定の参考資料とするために、次のとおりアンケートを実施しました。

#### (1) 実施時期

平成29年2月～5月

#### (2) 対象者と回答数

##### ①乳幼児の保護者

- ・ 1歳6ヶ月健診対象者 (85名)
- ・ 3歳児健診対象者 (78名)
- ・ 図書館来館者、インターネット回答者 (11名)

②多摩市内保育園 (12園)

③多摩市内幼稚園 (8園)

④多摩市立学童クラブ (19クラブ)

⑤多摩市立児童館 (10館)

⑥多摩市立小学校2年生 (1,053名)

⑦多摩市立小学校5年生 (1,024名)

⑧多摩市立中学校2年生 (871名)

⑨多摩市内高等学校2年生(図書館来館者の高校生を含む) 371名)

⑩多摩市立小学校(学校図書館司書、司書教諭) (17校)

⑪多摩市立中学校(学校図書館司書、司書教諭) (9校)

⑫多摩市立図書館におけるおはなし会等ボランティア団体 (19団体)

⑬多摩市内地域文庫 (1団体)

⑭小学生以上の子どもを持つ保護者、18歳以上の方

- ・ 図書館来館者、インターネット (7名)

### (3) 集計結果（概要）

ここでは、本アンケートの結果から読み取れる傾向等について取り上げます。

数値は、小数点以下四捨五入です。

なお、アンケート結果の詳細は、資料編を参照してください。

\*\*\*\*\*

#### 【健診受診者等（乳幼児をもつ保護者）】

① 約9割が、お子さんと本を楽しんでいます。

質問 「子どもと本を楽しんでいますか？」

→ 「いつもしている」「ときどきしている」を選択した保護者の割合

1歳6ヶ月児健診受診者・・・95%

3歳児健診受診者・・・88%

図書館来館者、インターネット回答者は100%

（資料編 健診受診者等（乳幼児を持つ保護者）アンケート結果 4 参照）

【第4章 9. 評価指標（数値目標）に再掲】

② 1歳6ヶ月の保護者で図書館を利用する人は、3割程度ですが  
3歳児の保護者では、約5割程度に増加します。

質問 「お子さんと一緒に図書館を利用しますか？」

→ 「よく利用する」「時々利用する」を選択した保護者の割合

1歳6ヶ月児健診受診者・・・30% 3歳児健診受診者・・・47%

（資料編 健診受診者等（乳幼児を持つ保護者）アンケート結果 2 参照）

- ③ 3歳児の保護者が「本の情報収集をする手段や媒体」としているのは  
幼稚園・保育園（1位）、図書館（3位）でした。  
なおインターネットは1歳6ヶ月（2位）、3歳は（4位）です。

3歳児保護者の情報収集の手段、媒体

幼稚園・保育園・・・59% 書店・古書店・・・54% 図書館・・・44%

（資料編 健診受診者等（乳幼児を持つ保護者）アンケート結果 6 参照）

- ④ 「本を読む子どもに育てるために必要なこと」として、1歳6ヶ月児と  
3歳児の保護者が選んだものは、いずれも
- ・家庭での習慣づけ（1位）
  - ・保育園や幼稚園での働きかけ（2位）でした。

	1歳6ヶ月児	3歳児
・家庭での習慣づけ	92%	94%
・保育園や幼稚園での働きかけ	35%	49%

（資料編 健診受診者等（乳幼児を持つ保護者）アンケート結果 8 参照）

\*\*\*\*\*

### 【各機関（保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館）】

- ① 読み聞かせはいずれの園、施設においても、積極的に行なわれています。

質問 貴園、貴学童クラブ、貴児童館では読み聞かせを行っていますか？

→「日常的に行っている」「行事等で行っている」を選択した各機関の割合

保育園・・・ 92%

幼稚園・・・100%

学童クラブ・・・100%

児童館・・・100%

（資料編 各機関（保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館）へのアンケート結果 1 参照）



② 各機関の約4～5割が、読み聞かせて「多摩市立図書館の協力」を希望しています。

質問 読み聞かせについて、多摩市立図書館に協力してもらいたいことなどがありますか？

→ 「ある」と回答した各機関の割合

保育園・・・45%

幼稚園・・・38%

学童クラブ・・・42%

児童館・・・50%

(資料編 各機関(保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館)へのアンケート結果 2 参照)

③ 絵本、紙芝居等の情報提供では、「多摩市立図書館の協力」の希望がさらに増えます。

質問 絵本、紙芝居等の情報提供で図書館がご協力できることはありますか？

→ 「ある」と回答した各機関の割合

保育園・・・58%

幼稚園・・・63%

学童クラブ・・・84%

児童館・・・80%

(資料編 各機関(保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館)へのアンケート結果 4 参照)

④ 各機関の約6割が「保護者への啓発事業」での多摩市立図書館の協力を期待しています。

質問 保護者への啓発事業で多摩市立図書館がご協力できることはありますか？

→ 「ある」と回答した各機関の割合

保育園・・・67%

幼稚園・・・63%

学童クラブ・・・63%

児童館・・・67%

(資料編 各機関(保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館)へのアンケート結果 7 参照)

\*\*\*\*\*

## 【小学生・中学生・高校生】

① 学年が上がるに従い、読書が好きな児童、生徒が減少します。

質問 読書が好きですか？（マンガ、雑誌は入れない）

→「好き」「どちらかといえば好き」を選択した児童、生徒の割合

小学2年生・・・93%

小学5年生・・・84%

中学2年生・・・75%

高校2年生・・・69%

（資料編 小学生・中学生・高校生の比較 1 参照）

【第4章 9. 評価指標（数値目標）に再掲】

② 読書が好きな児童、生徒は若干減少傾向にあります。

（平成24年との比較）

質問 読書が好きですか？（マンガ、雑誌は入れない）

→「好き」を選択した児童・生徒の割合

	平成24年	今回
小学2年生（平成24年調査は一部小学校3年生）	75%	65%
小学5年生	53%	52%
中学2年生	43%	41%

\*平成24年は高校生へのアンケートは実施していない。

（資料編 小学生・中学生・高校生の比較 2 参照）

③ 本アンケートでの不読率（一ヶ月に1冊も本を読まない子どもの割合）は前回よりも増加しています。（平成24年との比較）

質問 一ヶ月にどれくらい本を読みますか？（これにはマンガ、雑誌は入れません）

→「0冊」を選択した、児童、生徒の割合

平成24年 今回

小学5年生 7%→9%

中学2年生 17%→26%

\*なお、東京都の調査（平成27年度）では、設問形態等の違いから

小学5年生・・・4.3% 中学2年生・・・8.1% となっています。

（資料編 小学生・中学生・高校生の比較 7 参照）

④ 学年が上がるにつれて、学校図書館、公立図書館で本を借りる児童、生徒が減少します。

質問 あなたはどのように本を手に入れて読みますか？（複数選択可）

→「学校図書館で借りる」を選択した児童、生徒の割合

小学5年生 78% →中学2年生 42% →高校2年生 8%

→「学校以外の図書館（公立図書館で借りる）」を選択した児童、生徒の割合

小学5年生 44% →中学2年生 21% →高校2年生 10%

（資料編 小学生・中学生・高校生の比較 16 参照）

⑤ スマートフォン、タブレットで読書をする児童、生徒の割合は約2割前後です。

スマートフォン、タブレットで読書をする児童、生徒の割合

小学5年生 18%

中学2年生 21%

高校2年生 23%

（資料編 小学生・中学生・高校生の比較 17 参照）

- ⑥ マンガをよく読む児童、生徒は約4割前後です。  
またマンガを読まない児童・生徒も、約3割から4割程度います。

質問 どれくらいマンガを読みますか？

→ 「ほぼ毎日」「1週間に2～3回ぐらい」を選んだ児童、生徒の割合

小学2年生 42%

小学5年生 43%

中学2年生 39%

高校2年生 34%

→ 「読まない」を選んだ児童、生徒の割合

小学2年生 32%

小学5年生 28%

中学2年生 35%

高校2年生 41%

(資料編 小学生・中学生・高校生の比較 19 参照)

- ⑦ 学年が上がるに従い、学校図書館の利用率は減少します。  
中学生は約3割です。

・授業時間以外で学校図書館を利用している児童、生徒の割合

小学2年生 67%

(「よくいく」・・・11% 「ときどきいく」・・・56%)

小学5年生 47% (「利用している」を選択した児童)

中学2年生 33% (「利用している」を選択した生徒)

(資料編 小学生・中学生・高校生の比較 22 参照)

⑧ 小学2年生の7割以上が多摩市立図書館を利用しています。  
しかし学校図書館と同様、学年が上がるに従い減少する傾向があり、  
小学5年生で約5割、中学生の利用は3割以下となります。  
なお、利用頻度は「夏休みなど年数回の利用」が半数を超えています。

質問 多摩市立図書館には行きますか（利用しますか）？

→

「よく利用する」「時々利用する」を選んだ児童、生徒の割合

小学2年生 74%

「よく行く」・・・21% 「ときどき行く」・・・53%

小学5年生 50%

「よく行く」・・・9% 「時々行く」・・・41%

中学2年生 27%

「よく利用する」・・・4% 「時々利用する」・・・23%

（資料編 小学生・中学生・高校生の比較 25 参照）

質問 どれくらい利用していますか？

→一番多かった選択肢

小学5年生 夏休みなど年に数回（53%）

中学2年生 夏休みなど年に数回（80%）

\*小学2年生、高校生への設問はなし。

（資料編 小学5年生へのアンケート結果 18 中学2年生へのアンケート結果 17 参照）

⑨ この5年間で多摩市立図書館を利用しない児童、生徒が増加しています。  
(平成24年との比較)

・多摩市立図書館に「行かない」を選んだ児童の割合

	平成24年	今回
小学2年生	15%→24%	9ポイント増

・多摩市立図書館を「あまり利用しない」「利用したことがない」を選んだ児童、生徒の割合

	平成24年	今回
小学5年生	32%→48%	16ポイント増
中学2年生	41%→72%	31ポイント増

(資料編 小学生・中学生・高校生の比較 26、27 参照)

⑩ 多摩市立図書館のティーンズコーナーの周知度は、まだまだ低い状況にあります。

質問 多摩市立図書館のティーンズコーナーを知っていますか？

→「知っている」と回答した生徒の割合

中学2年生 26%

高校2年生 5%

(資料編 小学生・中学生・高校生の比較 30 参照)

\*\*\*\*\*

## 【市立小学校・中学校の司書教諭、学校図書館司書】

- ① 小学校では読み聞かせの実施率が100%、中学校では朝読書の実施率が100%、その他の読書活動も活発です。

### その他の活動

ブックトーク（小学校94% 中学校56%）

読書週間（旬間）期間中の推進活動（小学校88% 中学校78%）

（資料編 市立小・中学校の司書教諭・学校図書館司書への読書活動等に関するアンケート結果 1 参照）

- ② 小学校は、地域またはPTAのボランティア団体の活動を、積極的に受け入れています。中学校での受け入れは、9校中2校です。

### 小学校での受け入れ内容

読み聞かせ・・・88%（15校）

本の修繕、配架等・・・35%（6校）

### 中学校での受け入れ内容

ストーリーテリング・・・11%（1校）

その他（放課後の貸出、館内装飾、蔵書点検の手伝い等）・・・11%（1校）

（資料編 市立小・中学校の司書教諭・学校図書館司書への読書活動等に関するアンケート結果 2 参照）

- ③ 小・中学校の全校で「学校図書館だより」を発行しています。

### 発行・実行しているもので、次に多いもの

小学校 読書手帳

学校図書館の使い方・本の調べ方等の資料

学校図書館内での企画展示

中学校 学校図書館の使い方・本の調べ方等の資料

学校図書館内での企画展示

（資料編 市立小・中学校の司書教諭・学校図書館司書への読書活動等に関するアンケート結果 3 参照）

④ 家庭への働きかけは、中学校よりも小学校で積極的に行われています。

家庭への読書の啓発の主な内容（複数回答可）

→ ・保護者会が学級通信を通じて、読書の意義を家庭に説明している。

小学校 47% 中学校 11%

・多摩市立図書館のPRをしている。

小学校 53% 中学校 11%

・特に行っていない。

小学校 18% 中学校 33%

（資料編 市立小・中学校の司書教諭・学校図書館司書への読書活動等に関するアンケート結果 4 参照）

⑤ 異年齢の子どもたちに向けての読み聞かせは、中学校よりも小学校で積極的に行われています。

行っていない学校

小学校 6% 中学校 44%

（資料編 市立小・中学校の司書教諭・学校図書館司書への読書活動等に関するアンケート結果 5 参照）

⑥ 支援が必要な子どもに対しての読書支援では、「日本語を母語としない子どもに対する図書の提供等」が課題です。

日本語を母語としない子どもに対する図書の提供等を行っている学校

小学校 12% 中学校 22%

（資料編 市立小・中学校の司書教諭・学校図書館司書への読書活動等に関するアンケート結果 6 参照）



⑦ 小・中学校のいずれも図書委員会の活動は活発に行われています。

活動内容（主なもの）

図書の貸出・返却	小学校	88%	中学校	100%
読書週間（旬間）の運営	小学校	100%	中学校	67%
書架整理	小学校	100%	中学校	89%
おすすめの本の紹介等	小学校	94%	中学校	100%

（資料編 市立小・中学校の司書教諭・学校図書館司書への読書活動等に関するアンケート結果 7 参照）

⑧ 学校図書館利用のためのオリエンテーションの実施率は小・中学校いずれも100%です。

・全学年を対象にして実施しているところ

小学校 10校（59%） 中学校 0校

・実施時期

小学校は全て年度初めに実施 中学校は8校が4月に実施

（資料編 市立小・中学校の司書教諭・学校図書館司書への読書活動等に関するアンケート結果 8 参照）

\*\*\*\*\*

## 【多摩市立図書館等おはなし会ボランティア団体へのアンケート結果】

① 設立から10年以上の団体が約6割、会員数は平均7名です。

(多摩市立図書館等おはなし会ボランティア団体へのアンケート結果 1 参照)

② 活動場所は、多摩市立図書館のほかに、市内児童館、学童クラブ、市内幼稚園・保育園、市立小・中学校などであり、市立小・中学校でおはなし会を行っている団体の約6割が、授業中に行っています。

(多摩市立図書館等おはなし会ボランティア団体へのアンケート結果 2. 3 参照)

③ 地域でのイベントでもおはなし会を行っている団体が約5割あります。  
おはなし会以外の活動を行っている団体も約3割あります。

(多摩市立図書館等おはなし会ボランティア団体へのアンケート結果 5 参照)

④ 新規加入者がある団体は2割強であり、また次の世代の担い手に関して課題を持つ団体が半数を超えています。

(多摩市立図書館等おはなし会ボランティア団体へのアンケート結果 7 参照)

\*\*\*\*\*

### 【地域文庫】

- ① 対象は高齢者が中心であるが、小学生（低学年）、高校生、大学生もいます。  
活動内容は、①本の貸出 ②おはなし会 ③季節の行事等 です。

\*\*\*\*\*

### 【小学生以上の子どもを持つ保護者、18歳以上の方】

- ① 回答者は40代が多く、ほとんどが子どもと一緒に、または一人で利用する方でした。

利用目的は、①本を借りる。②さまざまな情報を入手する。

③本をよむため、調べ物をするため の順でした。

(小学生以上の子どもをもつ保護者、18歳以上の方へのアンケート結果 2、4、5 参照)

## 2. 学校図書館訪問から

第三次計画策定にあたっては、アンケート実施のほかに、多摩市立図書館子ども読書支援係の担当者が全小学校の学校図書館にお伺いし、その活用状況を実際に見学しました。

### (1) 目的

市立図書館と学校図書館の連携等を今後もより一層推進できるよう、第三次計画策定の前に各校の学校図書館の現状を見学すること。訪問で得た内容を計画策定の参考資料とすること。

### (2) 実施時期

平成28年11月～平成29年2月

### (3) 訪問対象

多摩市立小学校 全17校の学校図書館

### (4) 訪問時に行った事項

- ①図書館内外の見学
- ②図書館で行われている授業の見学（15校）
- ③学校図書館司書からのヒアリング（情報共有）

各小学校のご協力により、各学校でのさまざまな取り組み等を把握できました。全体のまとめは次のとおりです。

### ①学校図書館の場所について

改築工事や大規模修繕の際に、児童の動線を考慮してアクセスしやすい場所に移動する等、工夫がされています。

学校図書館がある場所

1階 4校      2階 3校      3階 9校      4階 1校

### ②学校図書館の設備について

冷房が設置されているのは17校のうち3校です。暖房は全校設置済み。

なお、平成29年度末には、大規模改修工事を予定している1校を除く、16校で設置が完了する予定です。

### ③改築、改修時

より児童、教師が使い易く、居心地のよい学校図書館に変更されています。

(改築例 多摩第二小学校)



エントランス



書棚、閲覧スペース

(改修例 東寺方小学校)



図書準備室を設置



調べ学習室の入口

#### ④蔵書について

新聞を購読している小学校は、17校中3校（中学校は9校中3校）  
（平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」結果から）

今後も新しい本や資料に更新をするために、図書購入費等を調整して  
いくことが課題です。

どの学校も、絵本等は表紙を見せるなど見せ方の工夫をしています。  
また子どもが本を手にとってくれるようにビジュアル的なものを積極的に  
展示する、学校によってはマンガを取り入れているところもあります。

テーブルを利用して平置きに



(瓜生小学校)

#### ⑤ 図書館の掲示、展示

各校が図書館の中だけでなく、図書館入口周辺、廊下の掲示、展示にも力を入れています。

図書館入口の廊下



図書館内



(諏訪小学校)

## ⑥学校図書館の活用

国語（図書の日）で定期的に学校図書館を活用しています。また、他の教科の調べ学習でも利用しています。

### 学校図書館司書による読み聞かせ



（瓜生小学校）



自由読書  
（諏訪小学校）



## 第4章 第三次計画策定にあたっての考え方

### 1. 計画の目的

多摩市子どもの読書活動推進計画（第一次、第二次）は、子どもが読書活動を行う環境を整えるため、家庭、学校、地域、市立図書館それぞれにおいて、子どもの読書活動を推進するための課題を明らかにし、市と市民、関係機関が連携して取り組む諸方策を示すことを目的として策定しました。

第三次計画は、これまでの取り組みを振り返りその結果を考察して、次の段階の課題を設定し、本計画を実施することで、より一層子どもの読書活動の推進が達成されることを目的として策定するものです。

### 2. 計画の期間

平成30年度～平成35年度までの6年間

### 3. 基本理念

#### 「すべての子どもに読書のよろこびを」

読書のよろこびは、本の世界の楽しさやすばらしさを体験し、いろいろな考えや生き方にふれ、自分の考えを深め、悩みや苦しみを乗り越える力を与えられるなど、さまざまです。このような読書のよろこびを、是非とも子どものときに感じて、豊かな心を育み、未来への可能性を広げてほしいものです。

さて、近年の子どもを取り巻く環境は、インターネット、スマートフォンなどの情報媒体の普及で大きく様変わりしています。このような情報社会で成長する子どもは、多くの情報から適切な情報を見つけ出し、自分で学習し、将来や進路等について考える能力を身につけていくことが必要となっています。

「読書」の意義は子どもにとってますます広く、深いものとなってきていくでしょう。

第三次計画の基本理念は、この読書の普遍性に着目し、第一次計画策定で設定した「すべての子どもに読書のよろこびを」を継承します。（第一次計画からの基本理念の継承）

#### 4. 基本目標

第三次計画は、第二次計画との継続性を重視することから、「基本理念」の下にある「基本目標」についても、第二次計画と同じ次の3本とします。

基本理念を達成するための3つの基本目標

基本目標Ⅰ 本の楽しさを子どもたちに

—本に親しむ機会の充実—

基本目標Ⅱ いつでもどこでも本はともだち

—読書環境の整備と充実—

基本目標Ⅲ みんなでつながり育てあう

—人材の育成、関係機関等との協力・連携—

## 5. 計画の対象

本計画は、おおむね0歳から18歳までを対象としています。

子どもたちの成長段階や状況にあわせた読書活動の支援が必要であることを踏まえ、対象を5つに区分しました。

### (1) プレママパパ・乳児

これからあかちゃんを迎えるプレママパパが絵本に親しむ時期。はじめて言葉に出会い、保護者等の読み聞かせなどを通じて読み手のぬくもりを楽しむ赤ちゃんの時期です。

### (2) 幼児

一対一の読み聞かせのほかに、集団で読み聞かせのおはなしを楽しみ、友だちとその世界を共有できるようにもなる時期です。

### (3) 小学生

引き続き幼児期からの読み聞かせを楽しむとともに、文字が読めるようになり、一人読みが始まり、また自分を見つめはじめ、自己と対話しながら読書をとおしていろいろな生き方にふれる時期です。また、学校での調べ学習等を通して社会との関わりに興味をもつ段階です。

### (4) ティーンズ

おおむね13歳から18歳までの子どもを対象とします。多様な生き方、考え方にふれながら自己を確立していく時期であり、また様々な媒体を通じて知識、情報を取り入れることが出来るようになります。

### (5) 支援が必要な子ども

心身に障がい等のある子ども、長期入院をしている子ども、何らかの理由で学校に登校していない子ども、日本語を母語としていない子ども、印刷物を読むのが難しい子ども、本に触れる機会に恵まれていない子どもなど、自ら読書をするためには、周囲の支援を必要としている子どもがいます。

## 6. 第三次計画策定における視点

これまでの10年間余の実績を踏まえての第三次計画は、これをより一層、実効性の高いものとしていくために、策定にあたってまず次の2つを、視点として設定しました。

### 第三次計画策定における視点

#### 1 市立図書館と学校図書館を軸とする読書環境の整備、充実

学校図書館は子どもにとって一番身近な図書館です。

このことから公共図書館である市立図書館と日常活用できる学校図書館双方の環境整備を一層図ることで、効果的な子供へのアプローチを目指すものです。

#### 2 第一次、第二次計画から続く課題に対する着実な施策の推進

第一次、第二次計画を振り返り検証すると、十分な取り組みが出来ていないものがあります。

このことから第三次計画では、これら課題となっている事項に対し集中的に取り組めるように施策を設定し、着実な取り組みを推進することを目指します。

⇒下記「7. 重点施策」を参照

## 7. 重点施策

第2章の第三次計画策定に向けての課題(1)、(2)等を踏まえ、効果的、集中的な取り組みが必要な施策については、これを重点施策として設定します。

## 8. 計画の推進

### (1) 第三次計画の推進における基本姿勢

計画推進にあたっては、「第二次計画を推進するための重点方針」継承し、これを新たに「第三次計画の推進における基本姿勢」とします。

### 第三次計画の推進における基本姿勢

- 1 乳幼児期から身近に本のある生活の重要性を保護者へ伝え、読書活動の推進を図る。
- 2 子どもの自主的な読書活動への支援
- 3 読書活動や図書館利用がしにくい子どもへの読書の提供

(2) (仮称) 子どもの読書活動推進連絡会を設置し、市民、関係機関等と連携しながら読書活動を推進します。

(3) 計画の進捗状況、評価について、図書館を中心に進行管理をしていきます。

(4) 本計画は状況に応じて見直しをしていきます。

## 9. 評価指標（数値目標）

評価指標（数値目標）として、次の3点を設定します。

### (1) 「子どもと本を楽しんでいる」と答える保護者の割合

「お子さんと本を楽しんでいますか？」に対して、「いつもしている」、「ときどきしている」と答える割合

	今回		次回アンケートにおける数値目標
1歳6ヶ月児健診受診者	95%	→	99% (4ポイント増。ほぼ100%を目標)
3歳児健診受診者	88%	→	95% (7ポイント増)

【資料編 健診受診者等（乳幼児を持つ保護者）アンケート結果 4 参照】

### (2) 多摩市内全保育園、幼稚園における団体貸出の利用率

	現在		次回の数値目標（調査年度に貸出を受けている団体数）
保育園	33%	→	50%（5割超を目標。11園／21園） (7園／21園)
幼稚園	11%	→	50%（5割超を目標。5園／9園） (1園／9園) 認定子ども園は幼稚園でカウントする。

【多摩市立図書館における利用団体データに基づく数値】

### (3) 読書について「好き」「どちらかといえば好き」と答える児童、生徒の割合 (マンガ、雑誌は入れない)

	H24年	今回	次回アンケートにおける数値目標
小学2年生	93%	→ 93%	→ 95%（2ポイント増）
小学5年生	89%	→ 84%	→ 90%（6ポイント増）
中学2年生	79%	→ 75%	→ 80%（5ポイント増）
高校2年生	—	→ 69%	→ 75%（6ポイント増）

【資料編 小学生・中学生・高校生の比較 1 参照】